

芸術文化学部の新設(創設)に向けて

芸術文化学部設置準備委員会

1. 芸術文化学部開設の背景

(1) 大学改革の背景

日本の大学を改革すべしという国民からの要請には大変厳しいものがあります。その背景には、わが国における少子高齢化の急激な進行と、長期にわたる社会経済の沈滞化や産業の国際競争力低下などが挙げられます。21世紀は「知の時代」といわれ、知の創出と人材育成が産業と社会を先導する時代です。そして、「知の時代」を支えなければならないのが大学であり、とりわけ、地方では国立大学への期待に極めて大きいものがあると言えます。

著名な経済学者ガルブレイスが述べているように、20世紀後半は経済学者の時代でしたが、21世紀は教育、芸術、生き方の時代なのです。21世紀の産業では、どれだけ生産性を上げられるかではなく、芸術文化の香りを色濃く醸し出すことがポイントとなるでしょう。人々の生活に根ざした生活文化産業が基礎となって、そこから派生する様々なニーズを満たす産業が創出されると考えられます。こうした産業構造のもとでは芸術文化に関する様々な感性・経験・ノウハウが科学技術や経済・経営と並んで重要となります。しかし、このような文化醸成の視点から見たとき、従来の芸術系大学が果たしてきた役割が十分であったとは言えません。

(2) 地域からの高岡キャンパスへの期待

近年、地域産業の高度化が進み、より専門的な知識を有する人材の育成が求められていることは周知のとおりです。しかし、いまやそれだけでは十分でなく、幅広い教養と、問題解決能力を有し、コミュニケーション能力のある人間性豊かな人こそ社会が必要としている人材なのです。このような社会のニーズに応えるためには、芸術系分野においても、充実したリテラシー教育、幅広い教養教育及び専門教育をバランスよく組み合わせた教育や芸術を社会や産業に役立てることが出来る教育が不可欠となります。

その一方で、富山県では高岡を中心として金属工芸、漆工芸、木材工芸などの伝統産業があり、美術工芸教育にも輝かしい伝統があります。このような富山県の芸術文化の伝統を継承し、発展させるという使命も忘れてはなりません。また、富山県全体の高等教育発展のためには高岡地区にも生涯学習や社会人再教育の拠点の設置が望まれています。この点で高岡キャンパスの役割は非常に重要であり、富山大学全体の教育・研究の成果を呉西地域へ浸透・展開するという役割も担う必要があります。このように考えると、ここ高岡に設置する新富山大学の学部は、芸術文化という特定分野を中核としながらも、社会科学、自然科学なども含む幅広い領域をカバーする内容が望ましいと言えます。

2. 芸術文化学部と高岡短期大学の相違

(1) 高岡短期大学の歴史

高岡短期大学は、地域の多様な要請に積極的に応え、広く地域社会に対して開かれた特色ある「国立短期大学」として、昭和58年10月に産業工芸学科、産業情報学科の2学科で開学しました。以来、地域産業の充実と発展のために貢献できる人材、地域社会のニーズに応えるべく人材を養成してきました。高岡短期大学は、この20年間にわたり地域の伝統産業を継承し、発展させるべく、実践的・経験的な教育を実施し、地域の要望に応じてきました。

(2) 4年制大学への移行

しかし、現在の短期大学の教育課程では、既に述べたような幅広い教養教育及び専門教育を系統的に教授し、社会が求める人材を養成することは困難であると判断し、高岡短期大学を4年制の芸術文化学部へ転換することになりました。ここ数年、高岡短期大学卒業生の専攻科への進学並びに他大学への編入学者が増加しています。高岡短期大学を4年制学部へ改組することは、これら学生の4年制大学志向など今後のニーズに積極的に応えるための選択だと言えます。

高岡短期大学は、富山県内国立3大学の再編・統合を機に、富山大学教育学部と高岡短期大学の**美術、工芸、デザイン、マネジメント、情報、工学**の多分野にわたる教育・研究実績を持つ人的資源を最大限に活かし、従来の美術系学部とは一線を画した芸術文化学部へ転換し、社会の要請に応えようとしています。このため芸術文化学部は、芸術文化学科1学科5コース制（造形芸術、デザイン工芸、文化マネジメント、デザイン情報、造形建築科学）で、社会と学生の視点に立った教育内容を実施するとともに地域のニーズを汲んだ研究に力を入れるなど、これまでの国立大学にはない全く新しい学部を目指します。

3. 芸術文化学部の理念

新大学における芸術文化学部の位置付けと役割を視覚化し、分かりやすく示したものが資料1、芸術文化学部開設の経緯と理念・目標などをまとめたものが資料2です。芸術文化学部においては、芸術系の他大学に見られるような芸術を極めることに主眼を置く教育・研究だけではなく、むしろ『**芸術文化に対する感性と幅広い分野の知識・技術を活用し、人間と自然や社会とかがわりの中で問題を発見し、解決しようとする意欲的な人材の育成**』と、『**地域の幅広い伝統産業を継承し、一層発展させることのできる人材の育成**』を目指し、意欲的な教育・研究を展開すべきだというのが私たちの結論です。このため芸術文化学部は、『**融合教育による総合的資質の育成**』、『**芸術文化の創り手と使い手の育成**』を教育目標とし、単に芸術家を育てることを主たる目標とした他大学とは一線を画した教育・研究を行います。

4. 芸術文化学部の役割

(1) 芸術文化学部の目標

富山大学、富山医科薬科大学及び高岡短期大学の3大学は、次の「基本理念」の下に新大学を設立することに合意しました。

3 大学統合の基本理念

『新しい大学は、地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、高い使命感と創造力ある人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化と人間社会の調和的発展に寄与する』

この合意に基づき、新大学の中で高岡キャンパス（芸術文化学部）が果たす役割を、「芸術文化を中核とし、人文科学、社会科学、自然科学、情報技術などの諸学問の融合によって芸術文化の振興をはかることにより、国際的に通用する学術情報の発信と、芸術文化の中核を担う社会人の養成を行う」と決めました。

21世紀の社会では、精神的な充実感や心の豊かさをこれまで以上に人びとが求め、様々な分野で「芸術」の果たす役割が重要になってきます。こういった社会の要望に応えられるよう、芸術文化学部は、芸術文化を切り口として地域社会の中核として活躍できる人材の養成や、国際社会の場に進出できる人材の養成、あるいは21世紀の新しい芸術文化を創り得る人材の養成を目指しています。

芸術文化学部は1学部、1学科（芸術文化学科）、5コース（「造形芸術コース」、「デザイン工芸コース」、「文化マネジメントコース」、「デザイン情報コース」、「造形建築科学コース」）で構成されることを特色としています。各コースの専門領域教育を行う一方で、社会環境の変化や地域からの幅広いニーズに柔軟に対応できるよう、融合教育を推し進め、これまでにない新領域を包含する芸術文化学部を確立し、社会への貢献を図ります。

そのために芸術文化学部を1学科5コースで構成し、全教員がコースではなく1つの学科に所属することによって、全ての学生に対して等しく授業を行う教育体制になっています。また、必修科目を極力少なくし、学生の科目選択範囲を広げています。これらのことにより、コースの垣根を越えて学生が科目を履修し、諸学問の融合教育を受けることが可能になっています。

(2) 地域社会への貢献

芸術文化学部は、高岡短期大学及び富山大学教育学部が長年にわたり果たしてきた地域貢献を基盤として、質・量ともに地域の要請に応える「地域貢献」事業を推進します。

これらの地域貢献は、富山県地域をはじめ全国の企業と一般市民、専門研究者、専門技術者を対象に幅広く事業を行い、地域の産業振興、生涯学習の推進など多様な要求に積極的に応えるものです。広く地域社会に対して開かれた特色ある学部として、「交流と貢献」を理念として任務を果たすため以下の取り組みを計画しています。

新大学において設立を予定している地域連携推進機構の地域づくり・文化支援などの事業を主に担当する部門を高岡キャンパスに設置し、産業と文化の支援を図ります。

造形、工芸、デザイン、建築、材料、文化政策、アートマネジメント、情報技術、語学、観光、新領域などにおける「共同研究」、「受託研究」、「技術相談」及び

「公開講座」を行います。

教育・研究成果等の「展示公開」を行います。

広く地域に大学の「施設開放」を行います。

「インキュベーション教育事業」、「産学官交流事業」及び「国際交流事業」などにも取り組みます。

5. 芸術文化学部の教育方針と養成する人材

芸術文化学部が目指す教育方針、養成する人材、更に卒業後に想定される進路は、以下のとおりです。

(1) 教育方針

芸術文化学部の教育理念は、「芸術文化に対する感性と幅広い分野の知識・技術を活用し、人間と自然や社会との関わりを見つめ、そこに存在する数々の問題を発見し、解決しようと自発的に行動する意欲的な人材の育成」です。

これを目指し、芸術文化に関する感性・知識・技術などの能力を実践的に修得させるだけでなく、専門知識を横断的に学ばせる融合教育により総合的な資質を形成することを重視し、次の点を十分に配慮した授業運営を行います。

問題解決能力の形成

人間と自然や社会との関わりを見つめ、そこに存在する数々の問題を自ら発見し、自ら調べ、学び、考え、主体的に判断して解決する能力を幅広い分野の知識・技術の融合によって達成します。

国際化・情報化への対応

コミュニケーションの道具としての英語能力の育成、異文化の理解など、国際化への対応能力を育成します。とりわけ、情報通信技術の飛躍的な発展に対応できる能力を育成します。

社会への貢献

単に技能・知識の獲得だけでなく、それらの技能や知識の応用能力と、それを駆使して人々の暮らしや社会に貢献することを考える力を養成します。そのために他人と協調し、他人を思いやる心、豊かな人間性を醸成します。

芸術文化振興への対応

生活に芸術的調和と潤いのある真に文化的な社会を創設するために、芸術文化の分野で広く人々を啓発、教育・指導できる人材や21世紀の産業に芸術的特性を反映させることのできる人材が不可欠です。このような人材を育成するために、多様な芸術表現に触れるとともに実際のものづくりをとおして、柔軟な発想力と美的感性を高めます。

環境問題への対応

環境問題は今や全ての人々が取り組むべき課題です。芸術文化の領域でも環境への影響に配慮した活動が求められています。そのために関連する技術・材料が、環境にどのような影響を及ぼすのかを理解できる基礎知識と、多角的に物事を見つめ判断できる能力を育成します。

(2) 養成する人材

先の教育方針に則った教育研究体制と教育システム及び教育方法により、芸術文化を切り口として地域社会の発展に寄与できる人材、国際社会の場にも出て行ける人材、あるいは21世紀の新しい芸術文化を創り得る人材、すなわち、次の人材を養成します。

融合教育による総合的資質をそなえた新しい中核的社會人

芸術文化学部は、社会環境の変化や地域からのニーズに対応すべく、芸術文化を中核として、人文科学、社会科学、自然科学、情報技術などの諸学問の融合によって新しい教育研究体制を有することとなります。本学部では芸術、文化、人間や自然、環境にまで深い理解と素養をもった社会人を養成します。すなわち、それぞれの専門分野に関する学識、技能のみならず、むしろそれらを支える幅広い教養、情報化及び国際化社会に対応できる情報処理能力と語学力を備え、多角的に物事を見つめ、判断できる総合的な資質を備えた人材です。

芸術文化の「創り手」と「使い手」

伝統産業の技能を継承し、発展させる人材を育成することも本学部に課せられた使命の一つです。しかし、伝統産業の技能は、孤立して存在できるものではなく、創り手と受け手（ユーザー）とのよい関係がなければ、存在できません。そのために本学部は、伝統工芸を含めた「芸術文化の創り手」だけでなく、芸術文化を深く理解し、社会に積極的に還元し、芸術文化の振興と定着を進める、いわば「人々を啓発する優れた使い手」も同時に養成します。そのためにも、上述のような総合的資質を備えた人材の養成は不可欠です。

(3) 卒業後の進路

卒業後に活躍できる分野として以下の職業が想定されます。

教育者や造形指導者を含めた造形芸術分野

作家、教員、生涯学習指導者のほか、画廊、放送、映像制作、出版、広告、印刷関係への就職が挙げられます。

工芸産業やプロダクトデザイナーなどのデザイン工芸分野

デザイナー、工房経営者、工芸家などのほか、小売、卸売、日用品、工芸品、建材関係への就職が挙げられます。

文化的サービスを担う文化マネジメント分野

文化プロデューサー、地域プランナー、学芸員のほか、観光産業、文化関連NPO、文化事業、各種企業の広報文化事業部門、官公庁、マスコミ関係、文化会館・各種ホールなどへの就職が挙げられます。

デザインセンスと情報処理能力を活かすデザイン情報分野

デザイナーのほか、情報機器、ソフトウェア、展示、印刷、出版、広告、映像制作、一般企業の情報企画部門などへの就職が挙げられます。

造形センスと工学的能力を活かす造形建築科学分野

建築士、インテリアコーディネーター、環境デザイナー、商品開発担当者、製造技術者などのほか、建材、工芸産業、電気機器、自動車部品、アルミ製品、福祉・医療機器、小売、建築、不動産、住宅関係などの企業や官公庁への就職が挙げられます。

6. 高岡短期大学の統合により実現できること

これまでに芸術文化学部創設の理念や教育研究の目標について述べてきましたが、忘れてはならないことは、富山大学、富山医科薬科大学、高岡短期大学を統合して人文学部、経済学部、人間発達科学部、経済学部、芸術文化学部、理学部、工学部、医学部、薬学部の8学部を有する北陸圏におけるもっとも充実した国立大学の一つとなるということです。資料1に示されているように、人文科学、社会科学から自然科学までの幅広い知を集積した新大学の中に芸術文化学部が存在することになります。この統合によるメリットは、芸術文化学部にとって大きなものです。それと同時に、芸術系学部のある総合大学は稀な存在となり、新大学における芸術文化学部には他大学にはみられない活躍が期待されています。主なメリットを挙げると、つぎのようなものとなります。

(1) 教育研究面でのメリット

- ・異分野間の相互刺激による視野の拡大と新しい価値の創造が可能になります。
- ・高岡キャンパスの他、他キャンパスとの間で、学生生活全般にわたった活発な学生間の交流が期待できます。

(2) 地域貢献面でのメリット

- ・異分野にまたがる教員が共同で融合的公開講座を提供すると共に、学際的分野で産学連携が可能になります。
- ・キャンパス間の相互協力により、生涯教育や産学連携などのサービスを実質的に提供できる地域が広がります。

(3) その他のメリット

- ・富山県の提言に沿った「伝統工芸、デザイン分野の人材養成機能の充実強化」などの人づくりの拠点が形成できます。
- ・高岡市が提言する4年制への移行（進学需要を満たしうる特徴のある教育内容や地域活性化のための高度な技術・技法を有する人材育成）の実現に応えることができます。
- ・地元の要請に応えられることから、地元の積極的な支援、協力が見込まれます。

7. 教養教育の特徴

芸術文化学部の教養教育は、全てのコースの学生が共通に身につけるべき基本スキルと幅広い教養を重視した科目群から構成されています。教養教育は卒業要件単位130単位のうち50単位以上の履修比重となっています。教養教育科目は大別すると3つのカテゴリーに区分できます。

(1) リテラシー科目（1～2年次に22単位以上履修）

4年間の学習を進める上で必須となる基礎能力を入学後の早い時期に獲得させるために開設する科目です。獲得が目指される基礎能力とは、情報収集・処理能力、コミュニケーション能力、問題発見・解決能力、思考力及び豊かな人間性です。このため、コミュニケーションに主眼を置いた英語、高度な情報リテラシー科目、健

康スポーツなどの科目を開設します。

リテラシー科目の重要な柱として注目されるのが、1年生必修の「導入ゼミ」です。「導入ゼミ」は「基礎ゼミ」(前期)と「プロジェクトゼミ」(後期)から成っています。「基礎ゼミ」はスムーズな大学生活への移行と、コミュニケーションスキル、情報収集能力、プレゼンテーション技術の早期獲得を目指すものです。「プロジェクトゼミ」は問題発見・解決能力の育成を目指すもので、実社会でのフィールドワーク、インタビューなどの活動が重視されます。いずれのゼミも少人数クラスを基本とし、学生個人のスキル・能力の伸長に加え、グループ共同の作業による効果的なチームワークの進め方を学ぶことを重視します。プロジェクト型学習、参画型学習の「導入ゼミ」により、学生の主体的な学習を進めるスキル・能力を育成します。

(2) 「立山マルチヴァース講義」(1～3年次に2単位以上履修)

この科目は新富山大学の誕生を象徴する科目であり、芸術文化学部のある高岡キャンパス、人文学部、人間発達科学部、経済学部、理学部及び工学部のある五福キャンパス、医学部及び薬学部のある杉谷キャンパスの3キャンパスの教員が合同で企画し、3キャンパスの全ての学生を対象に開講されます。「立山マルチヴァース」とは富山の地に人文科学、社会科学、自然科学及び生命科学の多様な真理の共存を掲げた大学の新しいアイデンティティを告げるものです。

「立山マルチヴァース講義」は、『感性をはぐくむ』、『富山学 わたしの富山』、『心(こころ)、身体(からだ)、そして生命(いのち)』の3つの授業科目から構成され、それぞれの科目は3キャンパスの教員が題名に沿った内容の講義を分担し行う、リング・ゼミナール(いわゆるオムニバス形式の授業)です。3つの授業科目は3キャンパスで1授業科目を実施し、3年で一巡することになっています。1つの大学に生まれ変わってはじめて可能となる「知」の集結です。

(3) 幅広い教養教育科目(1～4年次に26単位以上履修)

幅広い教養教育科目は人格形成と専門分野への広い関心を促すべく提供される科目群であり、これらの科目は、「人を知る」、「文化芸術を知る」、「社会を知る」、「自然とモノを知る」、「自分を表現する」の5つの分野に分類されます。これらは1～4年次にわたり履修することになります。1～4年次にわたり履修することになっていることの狙いは、専門教育科目との有機的な結合をはかることであり、専門分野を学びながら、あるいは専門分野を学んだ後に原点に戻って学び直すことを可能にするためです。分野の広がりにおいても、科目数においても更なる充実が望まれますが、全教員が出動する態勢で臨むこととしています。

8. コースの特色及び教育方法

(1) 造形芸術コース 資料3

造形美に対する鋭い感性と人間社会に対する深い関心をベースに、伝統的な表現技法だけでなく、情報技術に基づく表現技法の基礎知識の上に立って、斬新な発想と創造活動ができる人材、多様な思想や感性を持った人々とも造形表現を通じてコミュニケーションができる人材、更には芸術を社会や産業に活かす活動ができる人

材の養成を目指します。養成される人材は、技法の枠組みに囚われずに表現できる造形分野の芸術家、日本の伝統工芸や西欧的芸術指向を超越できる造形作家、幅広く造形芸術を理解して社会・経済活動に活かせる企画担当者です。このような人材の育成を目指して、以下の能力の獲得を目指します。

- 1) 素材の特性やマルチメディア情報を造形表現に活かせる能力
- 2) 従来の技術や素材の枠組みにこだわらない表現方法を生み出せる能力
- 3) 電子化された芸術情報を駆使して社会や産業に関わることのできる能力
- 4) 芸術表現を人々の暮らしにどう応用するかを考え、提案できる能力
- 5) 絵画、彫刻などの造形表現を社会や産業に活かせる能力

また、コースの教育理念の実現に向けて、「平面造形表現」、「立体造形表現」、「複合造形表現」、「メディアアート表現」の分野を総合的に学ばせ、成熟した文化社会を目指す21世紀において造形芸術活動が展開できる人材を養成するため、以下のような特色ある教育方法を採用します。

造形芸術の歴史と理論を知る

一つの分野に限らず幅広い造形芸術体験をとおして総合的に造形芸術活動ができる人材を養成します。そうした活動を支える上で造形芸術世界の歴史と理論科目を1、2年次に設置します。また、将来の幅広い展開を望む学生には、4年間をとおして工芸、デザイン、伝統文化、建築、情報科学、文化マネジメントなどの基礎理論や歴史科目の選択が可能です。

総合的な造形芸術感覚と技能を養う

全ての造形芸術活動の基礎となる造形演習を1年次に複数科目設置します。2、3年次においては、平面表現、立体表現、複合素材表現、マルチメディア表現の技法・技能を習得させます。更に、3、4年次にはこれらを有機的に結合させ複合的な表現科目を設置し、卒業研究・制作へと展開します。

造形芸術活動を社会へ還元する資質を高める

造形芸術感覚や技法を社会へ還元するため、環境景観系科目、メディア系科目、建築計画系科目、材料科学系科目、構造計画系科目、舞台芸能系科目、文化経営系科目などを履修し、造形感覚を活かしたパブリックアート制作、造形建築素材での制作、舞台美術制作、映像芸術制作分野などへの社会進出が可能です。

造形芸術の幅広い展開能力を高める

他コースに関わる基幹科目、展開科目も造形芸術コースの学生にとって大半が履修可能な科目であり、学生個々の適正・要望に応じた独自の履修の組み立てができます。これにより社会の要請に応じた斬新な発想からの幅広い芸術活動能力を持った人材育成ができ、学生個々が新規に開拓する社会分野に進出することができます。

(2) デザイン工芸コース 資料4

専門分野と進路

デザイン工芸コースでは、主にクラフト、伝統工芸、プロダクトデザイン、インテリア・家具デザイン、アクセサリデザインなどの分野に対応します。

卒業後の進路としては、工芸作家、クラフトデザイナー、インテリア関連・日用

品・自動車・家電・住宅関連・医療/福祉機器メーカーなどを想定しています。

指導スタッフ

デザイン工芸コースでは、主としてクラフト、伝統工芸、アクセサリデザイン、プロダクトデザイン、家具制作、家具デザインなどを専門とする教員が指導にあたります。また、必要に応じて、建築、インテリア、IT、コンセプトデザイン、マネージメント、工学などを専門とする教員とも連携を図ります。

教育の特色

デザイン工芸コースでは、伝統工芸の素材や手わざの素晴らしさを生かした金属工芸、漆工芸、木材工芸教育に加え、日本の伝統的工芸技法や製品を世界的な視野に立って見つめ直し、新しい「カタチ」で産業的な活動に結びつける教育をとおし、これからの「プロダクトデザイン界をリードするものづくり」の育成を目指します。

特色は、「伝統工芸の素材や各種技法を熟知した上で、新しい視点で(用)と(美)を再構成していく工芸」と、「独創的なアイデアで暮らしを提案していくプロダクトデザイン」を結びつけた斬新な教育です。

科目の特色

デザイン工芸コースでは、基礎・専門科目に加え、社会性をもった実践型科目も数多く用意し、企画立案能力、発想力、制作技術力の養成に力点を置いています。また、個々の興味や目標に応じて人間工学や材料学、建築系科目を履修することもできます。

特色ある科目例：コース共同課題、クラフト製品の量産、デザインプレゼンテーション、工芸プロダクト(デザイン・制作・実務)、商品開発演習、形態発想の応用教育環境

国内はもとより諸外国の大学と比較しても劣らない、使いやすく整備された実技・制作室に加え、量産型の制作にも対応した各種加工機器、工学実験機器などの施設・設備、IT環境も充実しており、分かりやすい教材を豊富に用意して学生の修学をバックアップします。

(3)文化マネジメントコース 資料5

専門分野と進路

20世紀の日本は、自動車や電気製品に代表される「モノ」を作って発展してきました。しかし次のステージでは「モノ」だけでなく、新たに「ココロ」の豊かさを重視し、「文化」や「芸術」を世界の人々へ向けて発信してゆくことが重要になってきます。文化マネジメントコースは、この新しい分野での仕事を開拓し、活躍できる個性的な人材を育成します。

この新しい仕事には、「文化芸術に対する深い理解」と、「現代ビジネスに通用する実践的知識」の両方が必要となります。すなわち、このコースでは、芸術や文化に関わる、歴史や理論をしっかりと学び、その制作過程をも体験し、感性を磨くことができます。あわせて、これらの芸術文化の素晴らしさを世界の人々に届ける仕事を実現するための調査、企画、開発、営業や経営情報の管理、マネジメントなどのビジネス的センスを体得します。

欲張りですが、この2つを組合せてこそ、従来にはない能力と強みが獲得できます。

したがって本コースで学んだ卒業生は、メセナをはじめとした一般企業の文化事業ばかりでなく、企画・開発部門などにおいて強く求められる人材であり、さらに、文化行政に関わる公務員、NPO・諸団体の職員、まちづくり・都市環境・地域振興などに関連する事業プランナー、コンテンツプランナーなど、芸術や文化イベントを専門に扱える観光・ホスピタリティ・サービス業、広告・広報サービス、調査・コンサルテーション・情報サービスなどの分野での活躍が期待されます。

指導スタッフ

文化マネジメントコースでは、芸術文化の理解のための土台として、美学、美術史、伝統文化を専門とする教員が芸術に関わる理論や歴史、文化論を担当します。これらを学んで、身につけた能力と素養を社会で活用するための具体的な方法を、文化行政、キュレーション、アートマネジメント、NPO、シンクタンクなどでの現場経験が豊富な教員が指導します。グローバルかつ、実践的な企画立案能力やマネジメント能力を育て、幅広い分野での活躍に備えさせます。例えば、コンテンツ・マネジメントやNPOのマネジメント、さらに、ホスピタリティ・サービス業分野で国内外の観光・ツーリズムと文化・芸術を結び付けて活躍できる人材を育成するスタッフチームがいます。

教育の特色

芸術や文化と社会をつなぐ架け橋となる人材を育成するために、基礎的な芸術文化の理解を実践するためのイベントや文化事業の現場体験学習を重視したユニークな科目も用意されています。本コースでは、実務的能力の基礎を鍛えることを重視します。例えば、国際的な場面での活躍に欠かせない外国語によるコミュニケーション能力、情報処理やプレゼンテーションに必須のコンピュータとネットワークの活用能力、グループワークやイベント体験学習などで培う対人折衝能力、幅広く学んだ企画力やさまざまなマネジメント能力など、どんな職場にあらうとも必ず求められる基礎能力・スキルを徹底的に身につける必要があります。その実現をサポートする教育カリキュラムを組んでいます。

教育環境

高岡キャンパスでは、美術、芸術やデザイン、建築などの専門コースが融合的に学びの機会を共有化し、総合大学としての共有資源も含めて、効果的に利用できます。制作現場に身近に接し、交流の機会も多く、将来にわたる友人関係も育めるのは大変貴重な財産となるはずです。また、北陸文化圏には数々の芸術文化にかかわる伝統行事やイベントがあり、体験学習の機会と研究題材が豊富です。「文化マネジメントコース」は日本国内でも数少ない理想的な教育環境を持っています。

(4) デザイン情報コース 資料6

21世紀を迎え廃棄物の増大や地球温暖化などの環境問題が深刻化する今日、私たちはものから脱却し、こころに豊かさを求める生活に転換しなければなりません。ものを消費しなくても充実した時間が過ごせる生活をデザインしていくことが求められています。デザイン情報コースでは、学生ひとりひとりが「本当に重要なことは何か」を考え、社会のあるべき姿とそこに求められるデザインを追求していくことができるよう、次のような特色豊かな教育を行います。

自ら考え、提案できる人材の育成

「色」や「形」といった外観を整えることだけがデザインではありません。デザイン情報コースでは、コンセプトを創り出してから実際の利用を経て廃棄されるまでを総合的に考える行為がデザインに求められる役割と考えています。今あるものの関係性を整えてより利便性の高い日常をつくる「しくみのデザイン」や、ものに頼らなくても満足感が得られるような新たな「価値のデザイン」を提案できる人材を育成します。

専門性を融合した教育

デザインは、「創り手」と「使い手」のコミュニケーションを支える手段です。創り手が意図する情報を伝える媒体として時に携帯電話という製品やポスターという視覚物が用いられているだけです。コミュニケーションという観点からデザインを捉えるとき、それらは共に情報を伝えるメディアであり、プロダクトやビジュアルといった区分けは不要です。芸術文化学部の前身である高岡短期大学産業デザイン学科では、すでに既存のデザインジャンルを横断する教育プログラムを実践してきましたが、デザイン情報コースではこの実績を元に更なる融合教育を行います。

感性と論理性を両立させる科目構成

斬新な発想を生み出すために自然科学や伝統文化に関わる科目を幅広く学習すると共に、地域と連携した実践的授業やインタラクティブアートなどの科目を通して五感を用いて豊かな感性を身につけます。一方、プログラミングやマネジメント系の科目を数多く設けることで、論理的な考え方を身につけ「好き嫌い」ではなく「科学的な根拠」に基づいた提案を行う力を養います。

人を動かすコミュニケーション力の育成

既存にないデザインを提案するため、しかも目に見えないコンセプトをわかりやすく伝えるためプレゼンテーション力については特に力を入れます。IT技術の活用はもとより、人の心に響く効果的なコミュニケーション手法について学習します。加えて、英語によるコミュニケーション能力についても専門的授業の中で学習できるプログラムを計画しています。

大きく開放された門戸

デザイン情報コースでは「考えること」を第一に位置づけているため、従来のデザイン・芸術系学生だけでなく、広く文系・理系学部志望の学生にも門戸を開いています。単に絵が苦手というだけであきらめていた学生に、コミュニケーションという視点からデザインを捉えることで、自分だからこそできるデザインに挑戦する機会を提供します。

多彩な可能性が広がる進路

卒業後の進路は、従来のデザイン系に多かったグラフィックやWEBのデザイン事務所、映像制作、出版、宣伝広告、印刷などの事業所だけではなく、新たな発想や説得力のあるコミュニケーションができる人材は、自動車関連企業や家電メーカー、情報通信をはじめとして積極的なビジネスを展開している企業の企画・開発・戦略部門などから求められています。

(5) 造形建築科学コース 資料7

モノの広義のデザインには、形態としての美しさとともに機能、強度、安全性、さらにはコストや循環性などを考慮した総合的な見識が必要です。このために、造形建築科学コースでは、芸術的感性と工学の理論・知識を基礎として、人々の生活や社会に役立つ「製品」や「建築」とは何か、いかにあるべきかを総合的視点で考えられる人材の育成を目指しています。

養成される人材の特徴

- ・技術を理解して新製品の企画・デザインができるデザイナー、商品開発担当者
- ・地域の特性を活かし、リサイクル、環境に配慮した設計ができる建築家、インテリアデザイナー
- ・工芸、デザイン産業の製造に携われる工学と芸術の素養を備えた技術者
卒業後に活躍できる分野
- ・建築士、インテリアコーディネーター、環境デザイナー、商品開発担当者、製造技術者などのほか、工芸産業、電気機器、自動車部品、素材、福祉・医療機器、小売、建築、不動産、住宅関係などの企業や官公庁

教育目標

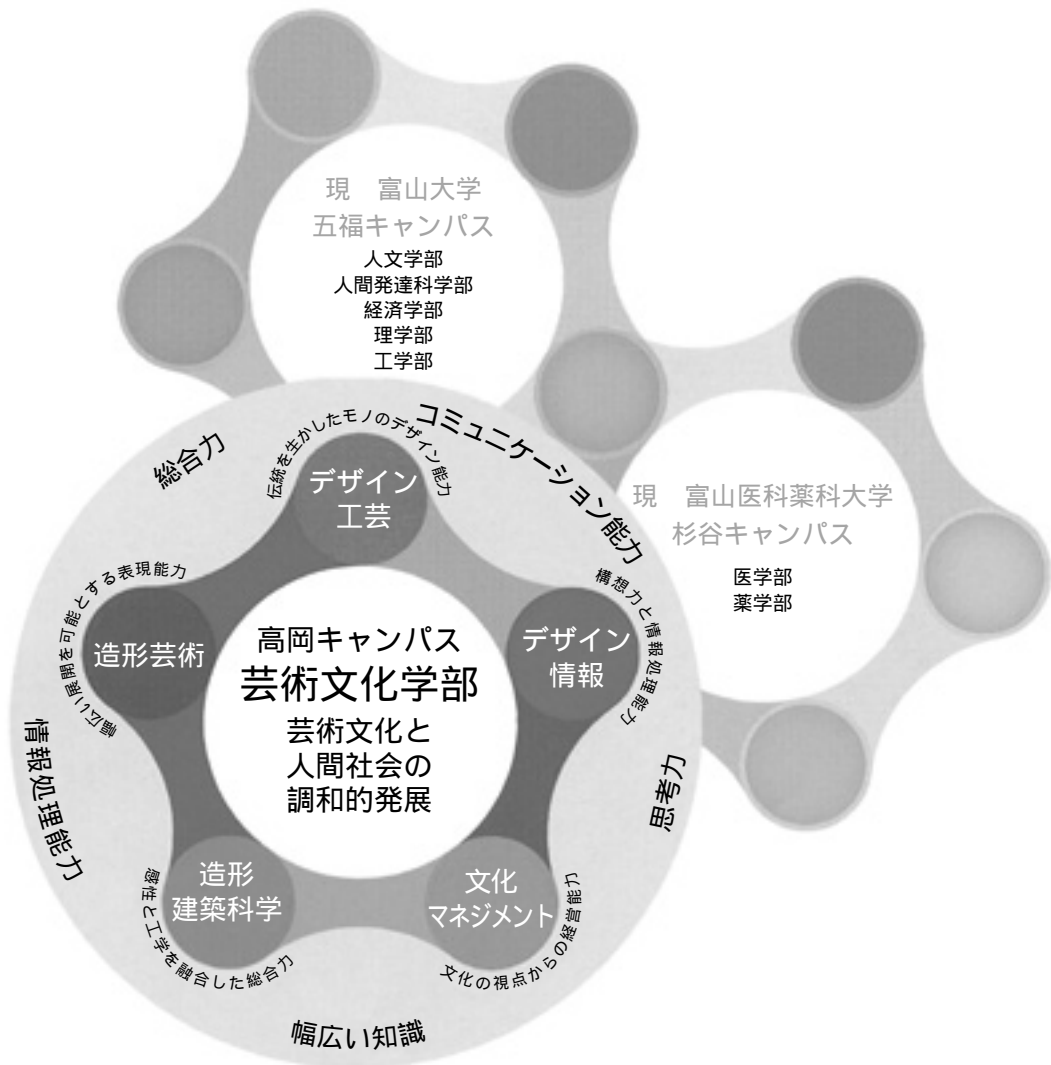
建築、製造産業関連の設計者、企画開発担当や技術者など、幅広い分野のものづくり産業で活躍できる、芸術的感性と工学的ものの考え方や知識を身につけた創造性豊かな人材を育成することを目指します。

教育科目の特色

学生が受講する主な授業科目と卒業後に活躍できる分野は資料7のとおりであり、次のように構成されています。

- 1) 豊かな文化生活の礎
専門分野を問わず4年間の学習を進める上で必須となる基礎能力を身につけます。
- 2) 芸術文化に関わる幅広い素養を身につける
人格形成と専門分野への関心を促すため、4年間にわたって文化と製品や建築との関連を学びます。
- 3) 造形美に対する感性と理解を深める
製品や建築の美しさを理解し、デザインや造形美に対する感性を身につけます。
- 4) 科学技術の理解力と論理的思考力の養成
事象を論理的かつ定量的に取り扱う方法と考え方を学び、人間と製品・建築の形や材料を科学的に理解し、論理的に考え具体化できる能力を養成します。
- 5) 製品科学や建築・インテリアデザインに関わる幅広い展開能力の養成
製品に関わろうとする学生は人間工学科目及び造形材料科目を中心に、建築に関わろうとする学生は主として建築空間デザイン科目を中心に軸足を置いて学習し、専門的知識を深めます。また、これらを複合的に履修することにより、問題解決のための総合的な知識と能力を高めます。

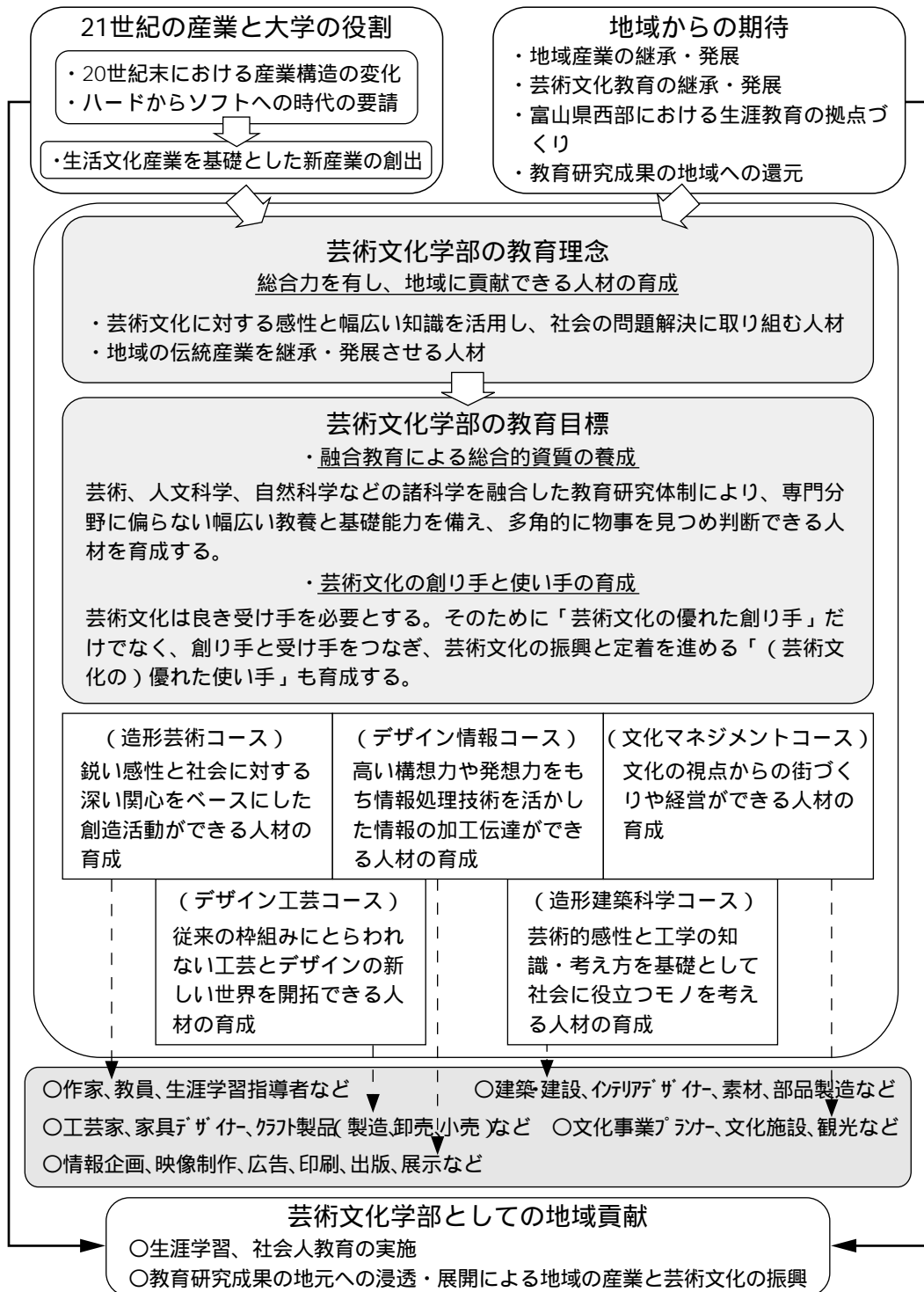
芸術文化学部概念図



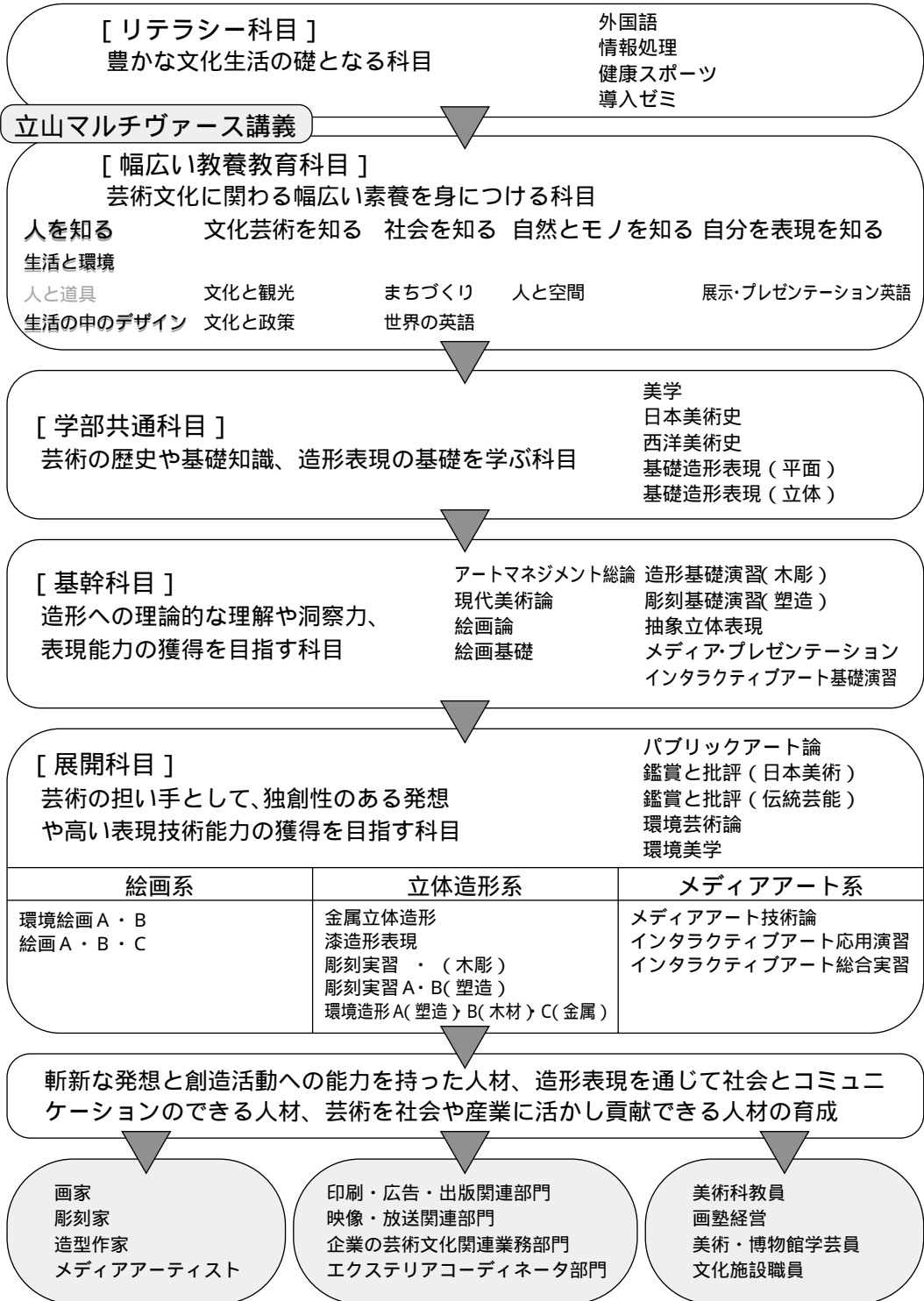
高岡キャンパス芸術文化学部の役割

- ・ 芸術文化に対する感性と幅広い分野の知識・技術を活用し、人間と自然や社会との関わりを見つめ、そこに存在する数々の問題を発見し、解決しようと自発的に行動する意欲的な人材の育成。
- ・ 地域の幅広い伝統産業を継承し、いっそう発展させることのできる人材の育成。

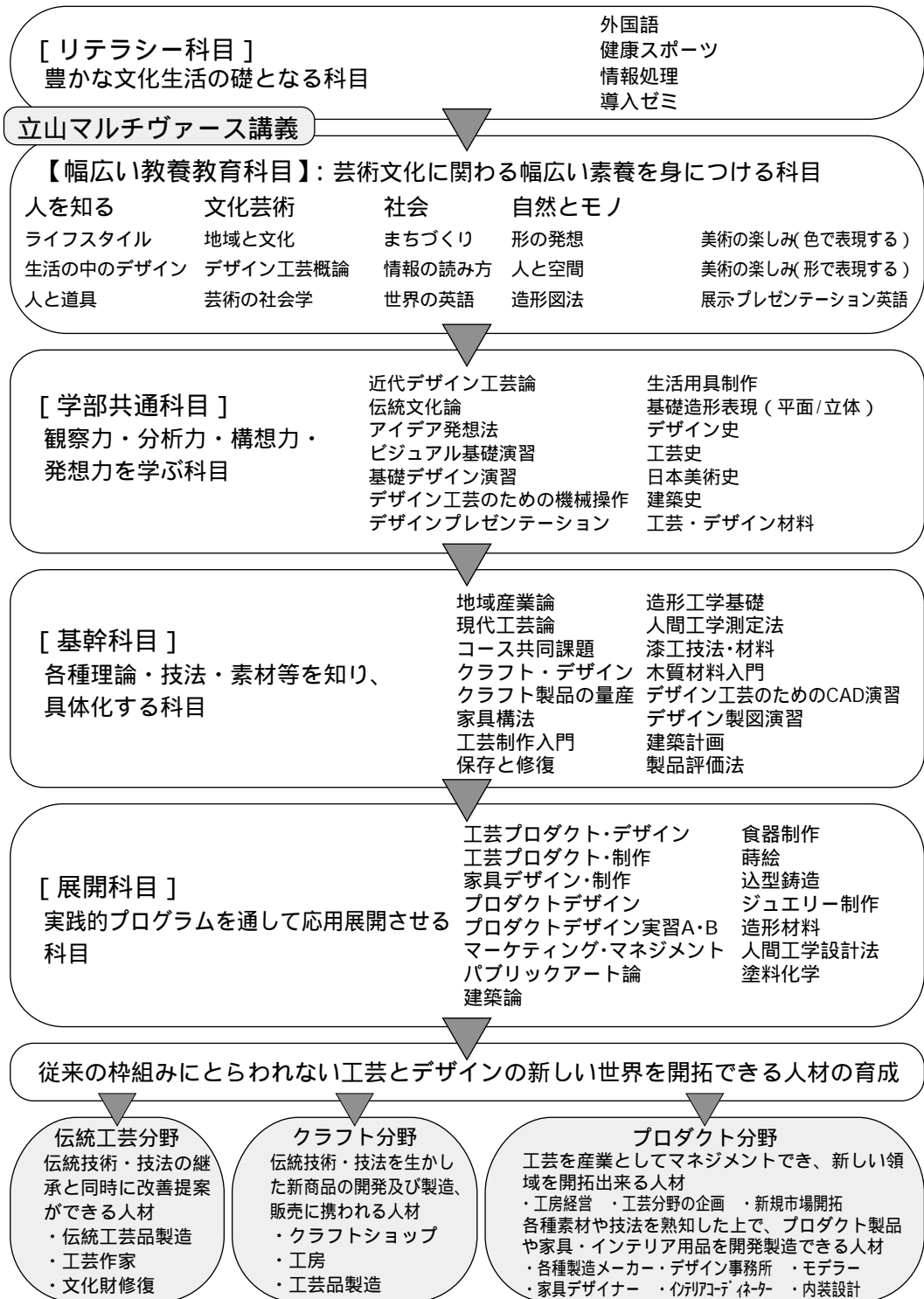
芸術文化学部の理念・特徴



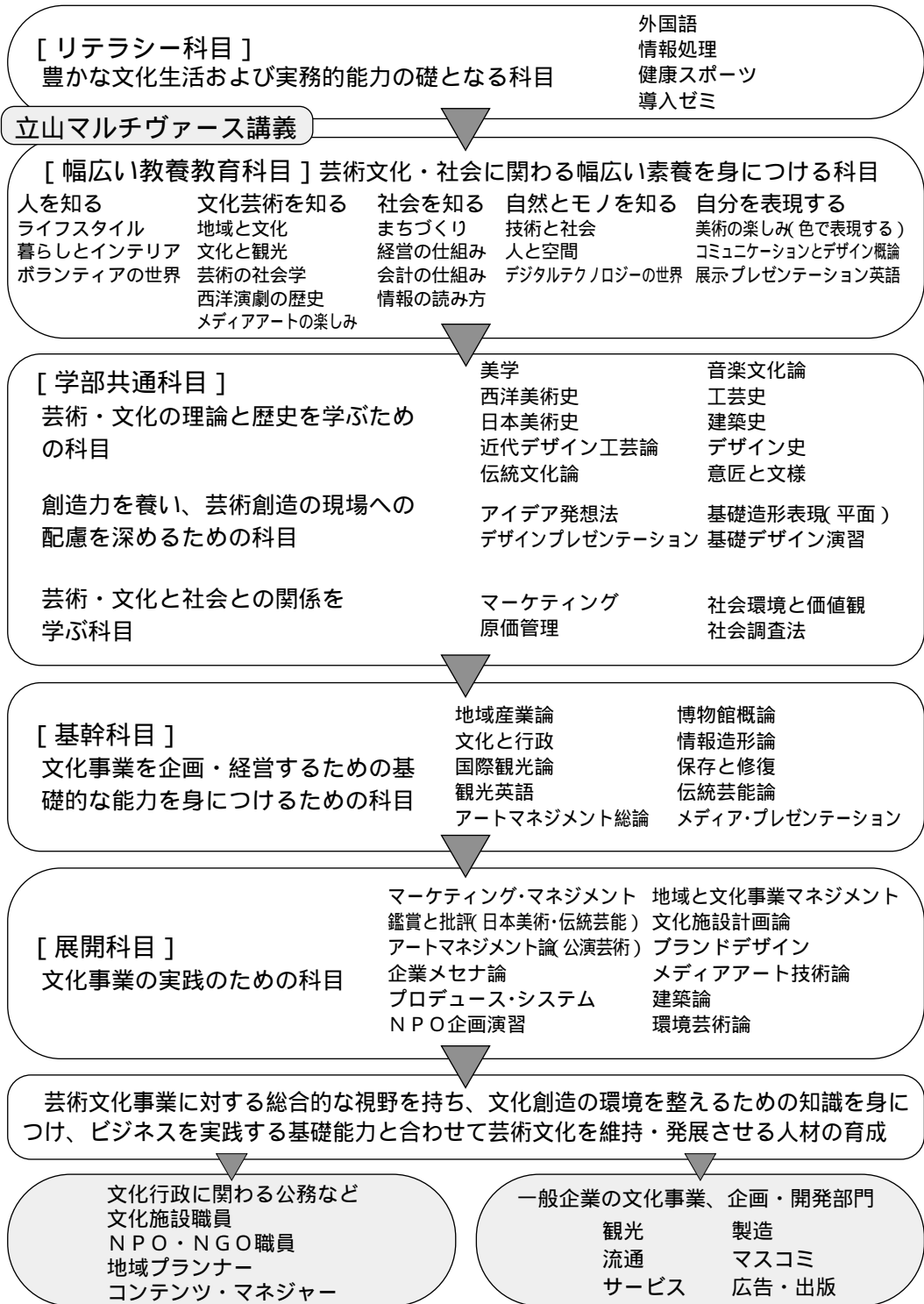
造形芸術コース概念図



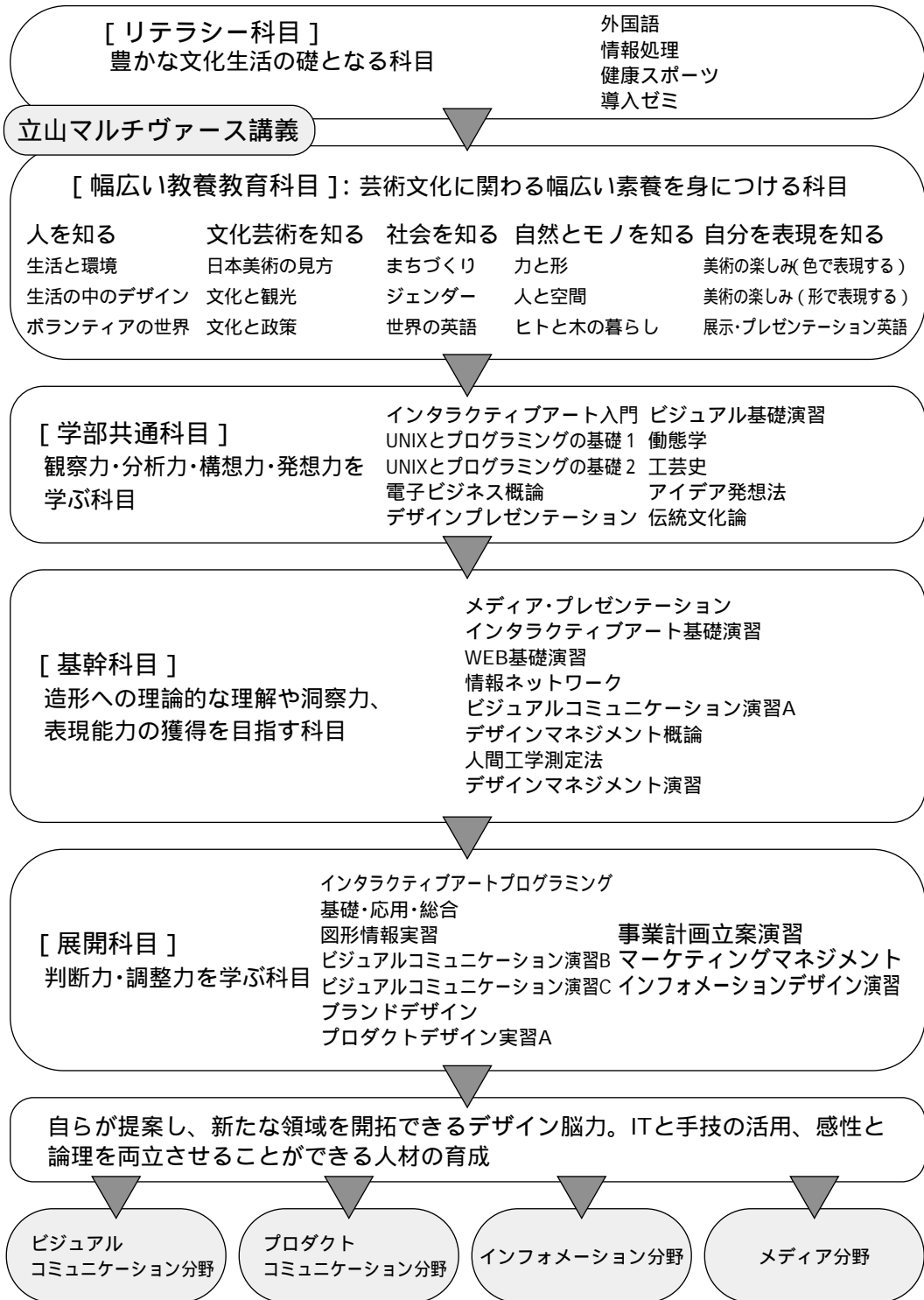
デザイン工芸コース概念図



文化マネジメントコース概念図



デザイン情報コース概念図



造形建築科学コース概念図

